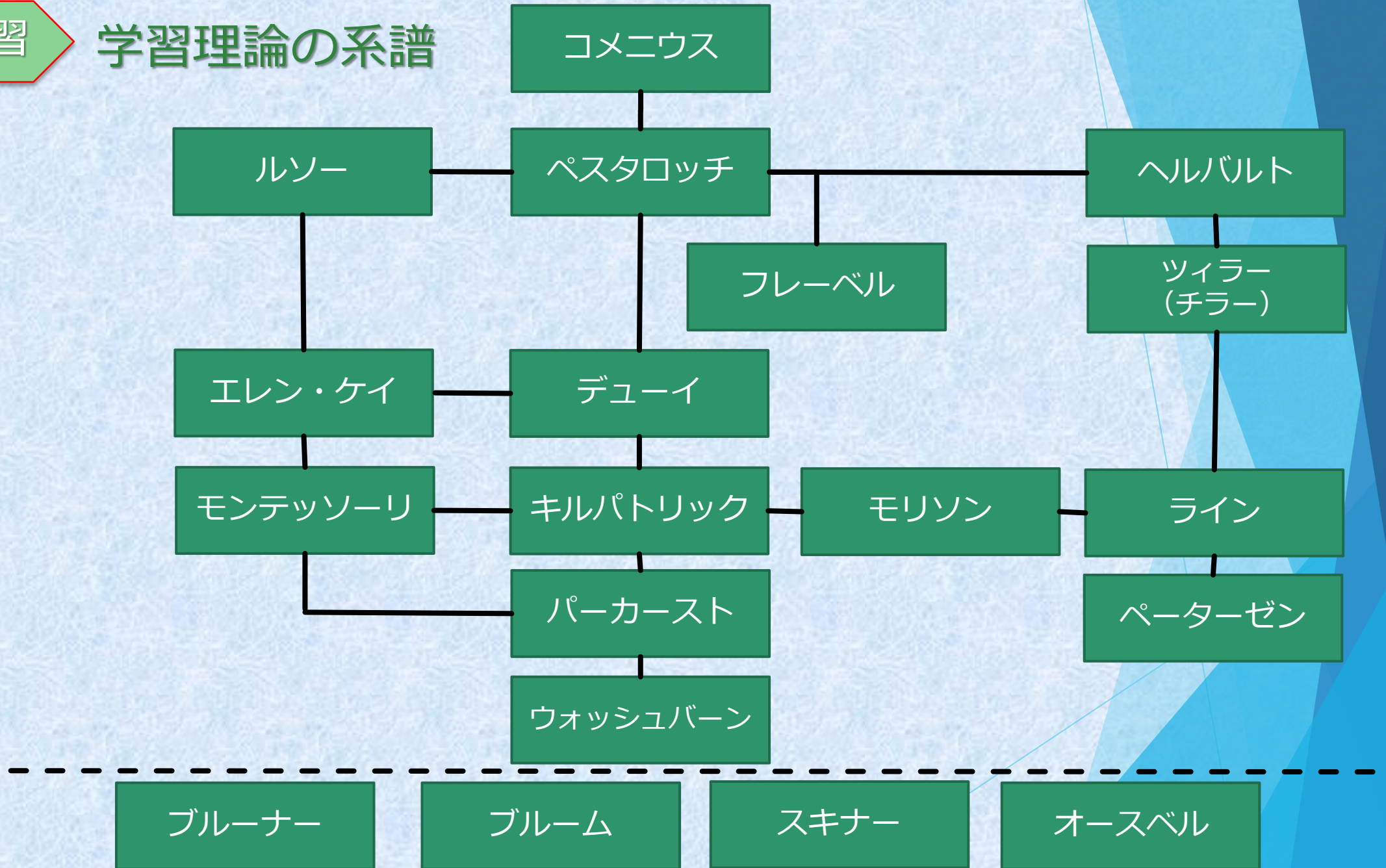


テーマ1

主な思想家とその業績

人物	特徴
コメニウス	実物教授, 直観教授 / 著書『大教授学』『世界図絵』
ロック	「白紙説」(tabula rasa) / 著書『教育論(教育に関する一考察)』
ルソー	「子どもの発見者」, 消極教育 / 『エミール』
カント	人間が人間として形成される要因として素質に対する環境の優位性 / 『教育学講義』
ペスタロッチ	労作教育, 直観教授(実物教授) / 『隠者の夕暮』『ゲルトルート児童教育法』『白鳥の歌』『シュタンツ便り』
ヘルバルト	道徳的品性の陶冶(教育的教授), 4段階教授法(明瞭-連合-系統-方法) / 『一般教育学』『教育学講義綱要』
フレーベル	幼稚園の創始者(「一般ドイツ幼稚園」), 「恩物」 / 『人間の教育』
エレン・ケイ	児童中心主義 / 『児童の世紀』
デューイ	「なすことによって学ぶ」, 経験主義教育 / 『民主主義と教育』『学校と社会』
モンテッソーリ	障害児教育, モンテッソーリ教具, 「子どもの家」 / 『モンテッソーリ・メソッド』

学習理論の系譜



テーマ1

教育プラン（20世紀以降に開発された）

名 称	内 容
問題解決学習	デューイの「なすことによって学ぶ」という経験主義教育の理論に基づき、生活経験における問題解決過程を学習過程とする。
プロジェクト・メソッド（構案法）	デューイの弟子キルパトリックが1918年に考案した。目的設定-計画-実行（遂行，作業）-評価（結果）という4段階の学習過程をたどって展開される。
ウィネトカ・プラン	ウォッシュバーンが1919年にアメリカ・イリノイ州ウィネトカ市で実施。共通必修教科（読み・書き・算の3R's）は個別学習にて習得，集团的・創造的活動（音楽，美術，体育など）は集団学習により社会化を促す。
モリソン・プラン	モリソンが1920年に考案。各教科の指導方法について，科学型，鑑賞型，言語型，実技型，反復練習型の5分類から教師が類型を採用する。
ドルトン・プラン	パーカーストが1920年にアメリカ・マサチューセッツ州ドルトン市で実施。主要教科群（国語，数学，理科，社会など）は教科別の実験室（ラボラトリー）でアサインメント（学習割当表）に基づく自習，副次的教科群（音楽，美術，体育など）は学級単位の授業で学習する。
イエナ・プラン	ペーターゼンが1924年にドイツのイエナ大学附属実験学校で実施。学年別学級を廃して低・中・高学年に分け，共同生活と自己活動重視の集団教育を実施する。

教育プラン（20世紀以降に開発された）

名 称	提唱者	理論の特徴
問題解決学習	デューイ	<ul style="list-style-type: none"> ○『学校と社会』（1899年） ○オキュペーション （学校と社会生活の連結を実現する活動） ○「織物」の單元では、布を織る作業を通して、衣服の歴史や文化を学ぶ
プロジェクト・メソッド （構案法）	キルパトリック	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の学びは、「目的的活動」 ○ロシア革命（1917年）の翌年に提唱 ○目的設定-計画-実行（遂行，作業）-評価（結果） ○道徳的・社会的態度を重視
ウィネトカ・プラン	ウォッシュバーン	<ul style="list-style-type: none"> ○イリノイ州ウィネトカの小学校 ○共通必修教科（個別学習） ○集団的・創造的活動（集団学習）

教育プラン（20世紀以降に開発された）

名 称	提唱者	理論の特徴
モリソン・プラン	モリソン	<p>1919年，シカゴ大学の教育学部の教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習单元」「5段階教授」を特徴としている ○「教師中心に始まって，児童中心に終わる」（武藤） ○モリソンプランの5段階 （「探究」→「提示」→「同化」→「組織化」→「発表」）
ドルトン・プラン	パーカースト	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の「個別化」を推進 ○アサインメント（契約）と呼ばれる学習計画を教師が承認する（佐藤） ○大正期には，成城小学校と明星学園で普及（個別教育を徹底）
イエナ・プラン	ペーターゼン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1924年，イエナ大学付属実験学校 ○「画一教育」から「個別教育」へ ○ 3学年の子どもたちが，ファミリーグループを形成 ○「教える」から「教わる」を同時に構築 ○「自立学習」と「協同学習」 ○ 1960年代から，オランダでも急速に普及